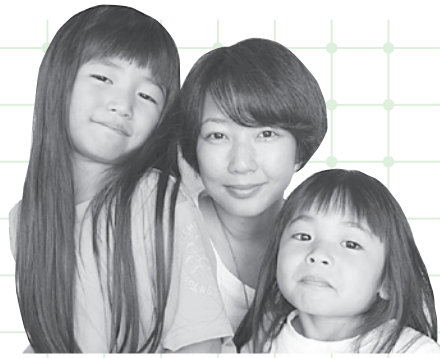


# こうほう ショッキング

Vol.90

Kōhō shocking



の ぎ た か お り  
野 北 香 織さん

## ●プロフィール

40歳 福岡生まれ、豊玉町仁位在住。2児の出産を経ながら会社に勤務するも体調を崩し休職。ある日母と歩いた海岸でシーグラスを見つけた時、枯渇していた感情が一度に湧き出たという。ビーチコーミングで集めることから始まったシーグラスを極めたいと文献から学び、世界的にも特徴のあるイギリスのシーグラスを仕入れるまでに。一昨年の11月、夫の転勤に合わせて対馬に転居。今年3月にはイギリスのビーチコーミングの様子を実際に見に、イングランド北東部の町シーハムを訪れた。自身のホームページ「シーグラスクロニクル」で、デザインしたアクセサリーやオブジェの販売を行う。現在、7歳と5歳の娘との3人暮らし。夫は長崎市に単身赴任中。

○シーグラスにも地域の特徴があるんですね。

もともとは生活の中で使われていたガラス製品が海に捨てられたものですから、例えば飲料の容器だと茶色や緑、透明なシーグラスは良く見かけます。赤や黒などは珍しいですし、採取された地域によっては年代や成分などに特徴があるため、希少なものもあります。イギリス北東部で採取されるシーグラスには模様が入ったものが多いんです。それは、その昔この地区で隆盛を極めたガラス工場が操業していた約70年間、失敗作や不要なガラスを産業廃棄物として海に捨てていたからなんです。

○シーグラスを通して、何だか人の営みを感じます。

仲間と楽しく飲み交わしたビールだったかもしれない、夏の暑い日に子どもの喉を潤したラムネだったかもしれない、そんな空き瓶を何気なく投棄したものが波で削られ、長い年月を経た拾われて、誰かの手に届く：巡り会いのようですね。

○野北さんがシーグラスと出会った時のイメージは？

「シーグラスは丸くてきれい」ってイメージをお持ちの方は多いと思いますが、私はあまり可

愛いとは思いませんでした(笑)。自然物と人工物とはほとんど境目がないな、って。もとは牛乳ビンだったガラスが割れて、削られて、丸くなって。ガラスはケイ素ですから、細かくなって砂になる。全部が自然、循環する。

わが身も然り…。シーグラスのユーザーって、疲れてる人が多いような気がします。休職中とか(笑)。あの頃の私もそうだったのかも。シーグラスに癒される、とまでは思いませんでしたが、「どうでもいいや。ま、いつか」みたいな気持ちになれたんです。

○福岡生まれの野北さんですが、対馬とも縁があるんですね。

母方の実家が河内なんです。二人とも健在で祖父はもうすぐ101歳、祖母は89歳です。対馬は子どもの頃から好きな所でした。夫は平戸出身なので、対馬勤務時代は親戚の繋がりにも助けられ、いろんな方に本当によくしていただきました。私も、両親が元気でいてくれる今だからこそ、やりたいことは今やったほうがいいと思うんです。イギリスに一人で行けたのも、県外のイベントに参加できるのも、好きなことができるのは周りの人のおかげだと感謝しています。

○活動を通じて感じることは？

ブログで対馬のことを紹介し、島外の人に対馬の良さをアピールして、少しでも対馬に貢献できればと思っていました。でも本当は、対馬の人に対馬の良さを気づいてもらうほうが大事なんじゃないかな、って思えてきました。ビーチコーミングの講師をした時も、どこに行っても同じような風景だと思っていたという地元の人や、茂木浜も初めて来たという人もいて、もつたいたいと思っただけです。地元は普通にあるから感じなかったものに価値を見出すこと、対馬にもともとあるものが素晴らしいということに、地元の人に気づいてもらいたい。島内にいる人の心が動かされるのが、対馬にとって大きな力になると思うんです。縁のある対馬にいるから、もつと対馬と繋がっていききたい。地元のイベントにも参加して、人と会って、繋がっていききたいです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくコーナー。今回は厳原町久田道にお住まいの糸瀬加寿美さんです。お楽しみに。